



よいことの
ために
手を取りあおう



RI 会長：フランчесコ・アレツォ

2620 地区ガバナー：稲葉 雅之

会長：齋藤 高子 幹事：植山 和人 会場監督：妻鹿 政光

例会：毎週金曜日 19:00 ~ 20:00

グランドホテル浜松 〒432-8507 浜松市中央区東伊場 1-3-1 Tel: 053-450-3003 Fax: 053-450-3006

E-Mail: hamamatsu-naka@ri2620.gr.jp

2025年9月12日（金） 曇 第1708回例会 週報 NO. 8

司 会：鈴木とも子会場監督補佐
点 鐘：齋藤 高子 会長
国歌「君が代」斉唱
ロータリーソング「奉仕の理想」
ソングリーダー 古賀孝幸さん
シェークハンド・タイム

ゲスト

ブッダ基金 代表理事
日下部 善昭様

会長挨拶



前回の END POLIO 街頭募金には多くの方にご参加いただき、ありがとうございました。皆さん一人ひとりにマイクを持って訴えていただきました。少しでも街の方々に END POLIO という言葉が広まってくれたらと思います。集まった金額については、後ほど鷹尾さんから報告があります。ご協力ありがとうございました。

本日はブッダ基金の日下部さんに現在のネパール支援についてお話頂きます。ブッダ基金はもともと山口先生が立ち上げました。ロータリーの五大奉仕の国際奉仕について、私たちにできることを今日は考えたいと思います。

幹事報告

- ・配布資料・・・ロータリーの友
- ・回覧・・・ガバナー月信 Rotary 誌

- ・先日の牧之原の災害義援金を募ります。
- ・例会終了後、ルームで理事会があります。
- ・地区大会は16名の申し込みがありました。
- ・次週とその次 2 回休みです。その後の例会は、入会式です。



委員会報告

☆鷹尾 政夫 副会長

9月5日の街頭募金は18名の参加でした。募金総額は47,388円でした。参加されなかった方はぜひ募金をお願いします。



☆鈴木とも子 会員増強委員長

10月3日、3名の新会員の方の歓迎会を湖清で行います。ぜひご参加ください。



誕生日祝い

- ・鈴木 修さん 12日 喜寿
- ・三輪 久夫さん 21日
- ・栗原 伸夫さん 21日



スマイル

♪齋藤高子さん・植山和人さん

5日の募金活動では予想以上に募金も集まりました。赤いTシャツでリードしてくれた鷹尾さん、ありがとうございました。本日はネパールで活躍する日下部さんの卓話です。ブッダ基金や入手困難なコーヒーの話、楽しみです。



♪渥美専治さん

日下部様、本日の卓話ありがとうございました。



卓話 「ネパールコーヒーの勧め」

☆ゲスト紹介：渥美専治さん

日下部さんの本業は天竜で家具の製造をしています。ブッダ基金の関わって10年以上、今年の2月から代表理事になりました。今日はネパールコーヒーを販売しますので、ご購入ください。

日下部 善昭様



日下部は普通「くさかべ」と読めますが、出身の上阿多古では「ひかべ」と読み、10軒くらいあります。岐阜の方にルーツがあるようです。

ブッダ基金は2001年に山口貴司先生によって設立。翌年法人格を取得し、2005年から認定NPOとして活動をしています。2011年に「アジアの恵まれない子供たちの教育のために使ってほしい」と多額の遺贈を受けました。主な活動地域はネパール中西部のポカラです。

ネパールはインドと中国に挟まれた小さな国です。首都はカトマンズ、ポカラは第2の都市です。産業は農業と観光。人口は3000万人で、ヒンドゥー教が約8割、仏教、イスラム教も少数ですがいます。国民一人当たりの年収は22万円ほど。アジア最貧国の一つで、国民の20%が、特に農村部では45%が貧困層と言われている。教育は義務教育が8年生まで。無料なので9割卒業できていますが、その先はお金がかかり、卒業する人数は減ります。

ブッダ基金の柱はまず、医療支援。現地での医療キャンプは20回以上、のべ1万人以上の患者を診てきました。コロナ以降は医師側の高齢化とネパールの法規制のため実施できていません。

2つ目は教育支援で、ノートや

鉛筆などの文房具の配布や移動図書館。貧困層の子どもたちには靴や制服も寄贈しています。

3つ目は女性の自立支援。昔は女性は学校へ行けなかったもので、識字率も低いです。ミシンを買って裁縫技術を教え、自立や収入を得ることを目指しています。クッキーなどの焼き菓子を作って観光客に売る活動もしましたが、コロナで中断したままです。

4つ目が産業振興支援で、2009年にコーヒー栽培を始めました。学校の裏山に苗を植えましたが、最初はサルにいたずらされたり、雹が降ったりで、全く豆が採れませんでした。それでも最近は毎年数百キロは生産できるようになりました。コーヒーの売り上げで、この学校は週2回給食を出せるようになりました。校長は今度は養蜂に取り組んでいます。

ブッダ基金は今、理事も減少し、現地でも新しい団体と手を組むなど、転換期にあります。

お金をネパールに持って行って渡すのは簡単ですが、そうではなく、自立できる人材を育成する、向こうで回る仕組みを作ることが大切だと思って活動しています。

コーヒーには2050年問題というのがあります。今、コーヒーベルトは赤道近辺にしかなく、ネパールはそこに入っていない。ですが、今後、気温や降雨量、病害虫などの要因で赤道付近で採れなくなってくると言われています。消費量のトップ5はアメリカ、ブラジル、ドイツ、日本、インドネシア、世界的なカフェブームで、ネパールでも渡航するたびにカフェが増えています。生産量の上位国はブラジル、ベトナム、インドネシア、コロンビア、エチオピアで、まさに赤道直下の国々です。ですが、これらの国では近年、生産量が減ってきています。ネパールコーヒーというブランドはないかもしれませんが、ヒマラヤコーヒーという名前を聞いたことがあるかと思います。ネパールでは1940年ぐらいから栽培が始まっていたそうです。ネパール国内でも消費量が増え、生産量の82%が国内で消費されています。

ネパールはコーヒーの栽培適地がかなりたくさんあります。収穫量は望めませんが、質の良い豆が期待できます。村ごとにモデルが広がれば、貧しい村の収入が増えます。ネパールでは農村部には働き盛りの若い世代がいらないのです。農家の収入がふえれば、村のインフラにも活用できます。

ブッダ基金は、未来を作るに子どもたちのために支援をしていきます。「できる人ができる時にできることをする」を念頭において活動します。教育支援と、コーヒープロジェクトを中心に、可能なら衛生プロジェクトやクッキーの再開も考えています。今後は日本国内での「ネパールコーヒー」の周知に努めていきたいと思います。



SAA 司会 鈴木とも子さん



ソングリーダー 古賀孝幸さん

出席報告

発表：藤本武洋 出席委員

会員数	38名
出席者数	23名
出席算定会員数	32名
出席率	71.88%

前々回出席者数
27名
前々回出席率
84.38%

